

学 科	作業療法士学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖学Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	昼間部1年	学期及び曜時限	後期	教室名	教室及び4F基礎医学実習室
担 当 教 員	左 明				
実務経験とその関連資格	1986年医科大学卒業後(医学学士)、医科高等専門学校で教員として9年間勤務、統計学や栄養学などの科目を担当。 2000年、神戸大学医学研究科で医学博士号を取得。 2003年から3年間、受託研究員として、大阪大学大学院歯学研究科に在籍、コメディカルの解剖教育に役立つ教育方法を確立 医療系専門学校の専任講師として、看護・理学療法士・作業療法士・視能訓練士・言語聴覚士・柔道整復師・鍼灸師学科などの解剖学・解剖生理学を22年間担当、現在に至る。 日本解剖学会会員 「早わかり解剖学ハンドブック」(単著)など医学の専門書を6冊ほど監修や執筆(共著含む)				
《授業科目における学習内容》 作業療法士にとって必要とされる正常な人体の基本構造と機能を理解することを目標とする。 骨模型で関節面の形状や名称を確認し、テープを張り付けることで、関節包や靱帯の付着やはたらきを確かめることができる。筋肉模型で筋名を確認して、骨模型とテープで個々の筋肉の起始・停止・作用を確かめることができる。					
《成績評価の方法と基準》 1. 定期試験：基本は100%。ただし、「2～4」の項目で増減する。 2. 小テスト：90点以上の場合、一回に付き2ポイントを定期試験にプラス。ただし、100点に達するまで。 3. 課題についての発表：正しく発表できた場合、一回に付き1ポイントプラス。ただし、60点に達するまで。 4. 授業態度が悪い場合、一回に付き1ポイントマイナス(10ポイントまで)。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 解剖学 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 野村 嶺編 医学書院 早わかり解剖学ハンドブック 左 明著 ナツメ社					
《授業外における学習方法》 教科書と参考書をよく読み、積極的な予習・復習に努めること。固有名詞にいては声を出して、耳で覚えること。 授業終了後に問題集と国家試験の過去問(事前配布)を解くこと。わからないところをそのままにしないで、友達や、先生に質問して解決すること。積極的に模型を活用し、様々な構造物をイメージすること。友達同士で教え合うこと。					
《履修に当たっての留意点》 ①知識は楽にして身に付かない。人体の構造と機能という医学基礎知識を習得するには努力が必要。 ②人体についての知識は増えれば増えるほど、勉強が楽しくなるよ。 ③病理や臨床については、解剖学の知識がなければ語れない。本気にプロを目指しているのであれば、頑張り！					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	顎関節の構成・機能を説明できる。脊柱の連結様式、特に頸椎・胸椎・腰椎における連結の特徴と運動との関連性を説明できる。顎関節の構成と機能を説明できる。	教科書・参考書 模型	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。	
	各コマにおける授業予定	骨の連結各論(一)：頭蓋の連結、脊柱、脊柱と頭蓋及び胸郭の連結			
第2回	授業を通じての到達目標	各関節の関節面・靱帯・構造上の特徴・運動との関連性を説明できる。	教科書・参考書 模型	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。	
	各コマにおける授業予定	骨の連結各論(二)上肢の連結(一)：上肢帯・肩関節・肘関節			
第3回	授業を通じての到達目標	各関節の関節面・靱帯・構造上の特徴・運動との関連性を説明できる。骨模型で関節面を確認してから、テープで靱帯を表現したりして、その働きをも確認できる。	教科書・参考書 模型	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。	
	各コマにおける授業予定	上肢の連結(二)：手関節・手の関節 上肢の連結実習			
第4回	授業を通じての到達目標	各関節の関節面・靱帯・構造上の特徴・運動との関連性を説明できる。	教科書・参考書 模型	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。	
	各コマにおける授業予定	骨の連結各論(三)下肢の連結(一)：下肢帯の連結・股関節・膝関節			
第5回	授業を通じての到達目標	各関節の関節面・靱帯・構造上の特徴・運動との関連性を説明できる。骨模型で関節面を確認してから、テープで靱帯を表したりして、その働きをも確認できる。	解剖学教科書 解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。	
	各コマにおける授業予定	下肢の連結(二)：足関節・足の関節 下肢の連結実習			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	筋の起始・停止・作用とは何かを説明できる。骨格筋の神経を概説できる。筋の補助装置(筋膜・支帯・腱鞘など)を列挙して、その働きを説明できる。	教科書・参考書 模型	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	筋系総論:筋の形状、起始、停止、作用、支配神経、筋の補助装置		
第7回	授業を通じての到達目標	主な筋肉の起始・停止・作用・神経支配を説明できる。呼吸運動にかかわる筋を説明できる。	教科書・参考書 模型	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	筋系各論(一)体幹の筋(一):頭蓋・頸部・胸部の筋		
第8回	授業を通じての到達目標	主な筋肉の起始・停止・作用・神経支配を説明できる。	教科書・参考書 模型	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	体幹の筋(二):腹部、背部の筋		
第9回	授業を通じての到達目標	筋肉模型で個々の筋を同定できる。骨格模型にテープで主な筋肉を表現し、その作用と神経支配を説明できる。	教科書・参考書 模型	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	体幹の筋(三):実習		
第10回	授業を通じての到達目標	筋肉模型で個々の筋を同定できる。骨格模型にテープで個々の筋肉を表現して、その作用と神経支配を説明できる。	教科書・参考書 模型	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	筋系各論(二)上肢の筋 その1: 上肢帯の筋・上腕の筋		
第11回	授業を通じての到達目標	筋肉模型で個々の筋を同定できる。骨格模型にテープで個々の筋肉を表現して、その作用と神経支配を説明できる。	教科書・参考書 模型	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	上肢の筋 その2: 前腕の屈筋		
第12回	授業を通じての到達目標	筋肉模型で個々の筋を同定できる。骨格模型にテープで個々の筋肉を表現して、その作用と神経支配を説明できる。	教科書・参考書 模型	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	上肢の筋 その3: 前腕の伸筋・手の筋		
第13回	授業を通じての到達目標	筋肉模型で上肢のすべての筋肉を同定でき、かつ筋群ごとの作用と神経支配をまとめて説明できる。	教科書・参考書 模型	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	上肢の筋 その4: まとめ		
第14回	授業を通じての到達目標	筋肉模型で個々の筋を同定できる。骨格模型にテープで主な筋肉を表現し、その作用と神経支配を説明できる。	教科書・参考書 模型	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	筋系各論(三)下肢の筋 その1: 下肢帯の筋		
第15回	授業を通じての到達目標	筋肉模型で個々の筋を同定できる。骨格模型にテープで主な筋肉を表現し、その作用と神経支配を説明できる。	教科書・参考書 模型	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	下肢の筋 その2: 大腿の伸筋と内転筋群		